



WAW!2022 コンセプトノート

(参考)若者を巡る現状と課題

世界経済フォーラムは、世界がジェンダー平等を実現するためにはあと 132 年かかるとしています^(注1)。ジェンダー平等な未来に向けて、次世代の担い手のために今すべきことは何でしょうか。また、地域における 10 代から 20 代の女性の転出超過数の割合は同年代男性の転出超過数の割合より高い状態が続いており^(注2)、流出の要因には根強い固定的性別役割意識もあると指摘されているところ、解消に向けて各地域で取り組む必要があります。女性にとって魅力的な地域を作らなければ、持続可能な地域社会の発展は望めません。国際女性会議 WAW!2022 では、若者たちから未来に向けた声を積極的に聴きたいと思います。教育、雇用、結婚、出産等々のジェンダーに関わる諸課題に、今、直接当事者として関与してくるのは若者です。新たな社会を作っていくのは若者です。その声をいかに現在に反映していけるか真剣に考えていきたいと思っています。

公益社団法人ガールスカウト日本連盟が 2020 年に日本の 700 人の女子高校生に対して行った調査では、今後学校の授業で取り上げてほしい項目として、キャリア・プランニング、日常生活と法律・選挙権、人生における資金計画、デジタルリテラシー、性教育・生理等の女性の性と生殖に関すること、プログラミング、リーダーシップ、起業の方法等が挙げられています^(注3)。また、同調査では、「女の子だから」という理由で何らかの制限を受けたと回答した女子高校生が、全回答者の半数近い 47% を占めたとしています。具体的には、職業選択や海外留学を諦めた、力仕事はしなくてよいとされた一方、家事や家の手伝いをさせられた等の回答があったとしています。

ジェンダーに基づく無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）がキャリア・プランニング、政治への参画やリーダーシップ、デジタルリテラシーや起業の方法等、女子高校生たちが望む教育の多くに影響していることを再認識する必要があります。

雇用や結婚、出産を巡っても、時代は大きく変化しながらも、こうした思い込みから完全に解放されるわけではありません。男性と女性の性の違いはある前提で、その共生を目指す努力のための知恵を若者と共に探していきたいと思っています。

(注1) [World Economic Forum, "Global Gender Gap Report 2022"](#) p.5 (英語)

(注2) [内閣府男女共同参画局, "令和4年版男女共同参画白書"](#) p.140

(注3) [公益社団法人ガールスカウト日本連盟, "「ジェンダー」に関する女子高校生調査報告書 2020 ～声をつなぐ～"](#) p.46